



「もんじゅ」のロゴマーク
智慧の象徴の文殊菩薩が乗って居られる
「獅子」をイメージしたもの

廃止措置作業の着実な推進

水・蒸気系等発電設備の解体撤去



給水加熱器解体移送風景

給水加熱器の解体撤去

「もんじゅ」では、廃止措置の第2段階(2023年度から2031年度)の主要作業として、原子炉容器からのしゃへい体等取出し作業、水・蒸気系等発電設備の解体撤去、ナトリウムの搬出を行う計画としています。

このうち、水・蒸気系等発電設備の解体撤去においては、「もんじゅ」で初めての施設の解体撤去作業となり、まずは放射線管理区域外で放射化されていないタービン建物内の機器等の解体撤去を

2023年度から2026年度の期間で行う計画としています。

解体撤去については、安全の確保を第一に作業を進め、主要な機器である給水加熱器(発電効率向上のための予熱装置)5基について、2023年7月から解体撤去を開始し、すべての解体撤去を2024年8月に終了しました。

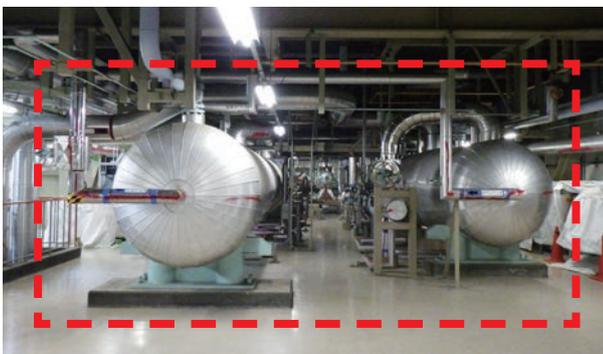
切断作業においては、様々な切断工法(セイバーソーやバンドソー、ワイヤーソー、ガス溶断など)を試しながら作業を進め、状況に

応じた適切な切断工法の使い分けの技術習熟や検証を行いました。

また、給水加熱器の解体で発生した撤去物のうち約15トンとなる重量物については、その運搬についても検討し、作業場所から運搬車両付近までの移送も工夫をしました。なお、今回の運搬は今後の解体撤去で想定される重量物の適切な移送方法の検証にもなりました。

今後も、引き続き安全を最優先に解体撤去を進めるとともに、技術習熟や各種検証を進め、成果の普及に努めてまいります。

高圧給水加熱器(解体前)



高圧給水加熱器(解体後)



タービン発電機の解体撤去

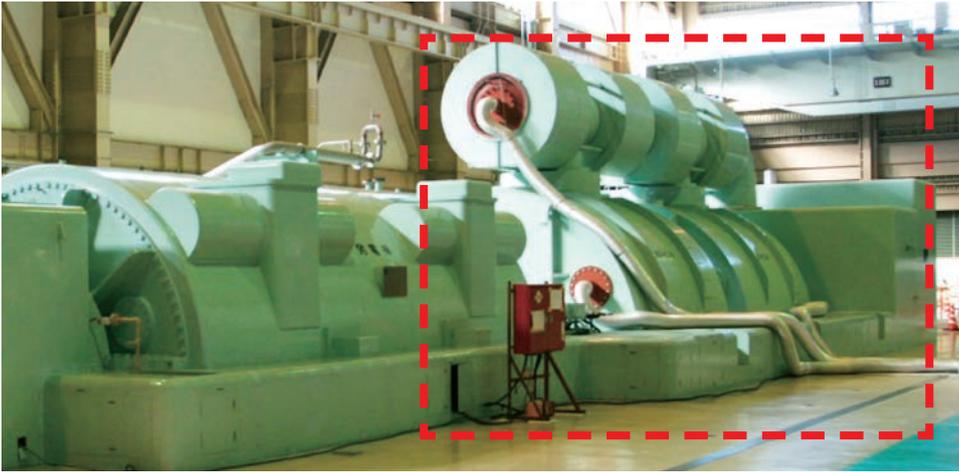
もうひとつの主要な解体対象機器であるタービン発電機の解体撤去では、タービン発電機の保温材や配管、付属品の解体撤去を行い、タービン(低圧)を覆っていたカバー(炭素鋼製)は取り外し、敷地

外に搬出しました。さらにタービン(高圧)を覆っていたカバー(炭素鋼製)についても取り外し、今後の作業に干渉しないよう一時保管して、来年度以降に切断して敷地外に搬出する予定です。

タービン発電機の解体撤去については、発電機本体を残して概ね解体撤去が完了したことから、本年7月からは、他の主要な解体対象機器となる復水器(タービンで電気を作った後の蒸気を水に戻す機器)の解体撤去にも着手しました。

象だけでなくその要因も想定できるように危険予知活動を行って、労働災害防止に努めているところです。引き続き緊張感を持って、安全を最優先に解体撤去を進めてまいります。

タービン発電機(解体前)



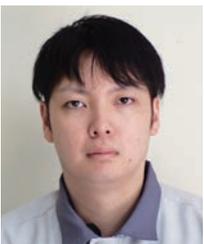
タービン発電機(解体中)



現場の解体撤去を進める上で

重要となる労働安全管理については、事前にはスクアセスメントを実施し、適切な労働災害防止策を施しています。合わせて危険に対する感受性を向上させるため、外部の労働安全コンサルタントによる指導、助言を受け、どのような状況や状態で行うとどのような労働災害が起きるか、現

この作業に携わる若手職員



高速増殖原型炉もんじゅ
廃止措置部 技術実証課
北尾 健太
(出身/福井県敦賀市)

2014年に入社し、「もんじゅ」の運転管理業務を経て、本年4月から技術実証課に配属となりました。現在は、「水・蒸気系等発電設備の解体撤去」の作業管理を担当しております。運転管理業務で培った知識や経験を活かし、「もんじゅ」の解体撤去のさらなる改善に努めます。「もんじゅ」初となる解体撤去を安全かつ確実に実施し、地域の皆様から一層の信頼を得られるよう頑張っています。